

【主題】地域の課題から社会で求められる能力を育む地域探究活動

【副題】村田町をPRするためのCM制作と様々な場面でのICT活用

【学校・団体名】宮城県村田高等学校

【役職名・氏名】教諭 仙道 大輝

## 1 はじめに

現在、普通科改革が進んでおり、2022年度より普通科内に新たな学科を設置することができるようになった。これは、現代社会が直面する課題や地域の抱える課題に取り組む学科を作り、画一的なカリキュラムではない、特色や魅力のある学校を増やすことが目的である。1994年に総合学科を設置した理由も同様の理由であったが、全国の総合学科の生徒数は現在、全体の生徒数の5%程度しかいない状態である。これは受験生や保護者に根強い普通科への意識があることも1つの要因だと考えられる。村田高校は、宮城県内初の総合学科を設置した高校である。今までの普通科にはできないような授業内容を模索し、実施事例を挙げることで、これから普通科改革が進む高校へも1つの方法として発信していければと思う。特に、村田町は少子高齢化・過疎化が進んでおり、村田高校は町内唯一の高校である。人口減少という地域の課題は学校の生徒数減少に直結し、地域の課題にとり組むことが学校の課題解決につながる。同様の状況になっている高校は多く、そういった高校の参考になる活動を行っていかねばと考えている。

今回記述する「産業社会と人間」は、総合学科の1年次での必修科目であり、自分について知り、職業や社会について知ることで、自分の進路実現に向けてのライフプランを描くことができるようにする授業である。2、3年次に履修する「総合的な探究の時間」と結びつけながら、高校3年間の中で社会で必要とされる生徒を育てていく。生徒の半数以上が就職する本校において、早い段階から社会で必要とされる能力を意識させ、その能力を身に付けるために高校生活で何ができるかを考え、行動させていくことが非常に大切となる。社会で必要とされる能力は様々あるが、その中でも特に今後必要とされる能力の1つである「複雑な問題解決能力」の育成をテーマにし、1年間授業を行った。地域と連携しながら、地域が困っている問題に対して生徒たちが自分たちで考え、互いに協力しながらその問題に取り組み、問題解決能力を育成できるような授業展開を考え、実施した。私が1年次主任になってから行った新たな取り組みも多く、その具体的な授業内容と狙い、成果をここで述べたいと思う。

## 2 「産業社会と人間」の授業実践

### (1) 地域探究活動前の授業展開

#### ①「産業社会と人間」の授業ガイダンス

ガイダンスでは、まずどんな授業内容か、生徒に知ってもらう必要がある。授業の中で社会で必要とされる能力の育成をしていくことについて話をした上で、どんな能力が必要とされるか、以下の2つのデータを見ながら生徒たちに考えさせる授業を行った。

1つ目のデータは、日本経済団体連合が企業に対して毎年行っている調査「選考にあたって特に重視した点」である。実際に企業に調査する際と同じ20の選択肢の中から、どの能力が上位となるかを生徒たちが予想し、Google Formsで自分の意見を送信する。予想と実際の結果の違いを見ながら、社会が求める能力について考えさせ、1位であるコミュニケーション能力の必要性と、それを身に付けるために色々な人と関わることの大切さについて話をしていた。

2つ目のデータは、2016年の世界経済フォーラムで発表された「2020年に企業が求めるビジネススキル」である。1つ目と同様に、予想と結果の違いを見ながら、これから求められる能力の上位に入る能力にどういった関連性があるかを話していた。1位である「複雑な問題解決能力」の重要性を理解させ、今年度の授業のテーマとしていることを話した。この後行っていく授業の中でも繰り返し「問題解決能力」について話をし、大人も困るような内容に対して、自分たちで考えようとする姿勢を身に付けられるようにしていた。

#### ②自己分析・職業調べ

社会で必要とされる能力を知り、その次のステップとして行ったのが、自己分析である。選択肢に挙げられていた能力について、自分がどの程度身に付いているかを考える図1のようなシートを生徒に作成させ、自己分析させた。

同様に、自分の興味のある分野の分析をさせ、適性検査の結果と比較するなどして、自分について考える時間を作った。その後、現在興味を持っている職業について詳しく調べ、発表する調べ学習を行っていた。職業調べの中でも、その職業で必要な能力について考える時間を設けており、常に必要とされる能力を意識させ、

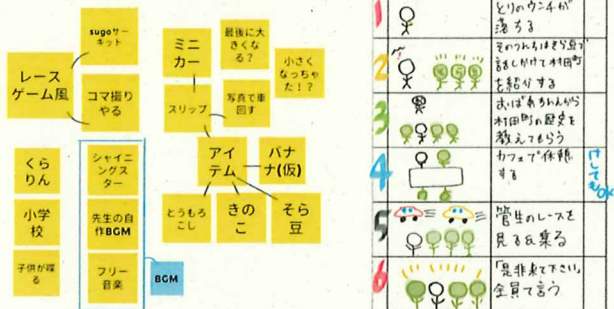




の方々に案内してもらいながら、3クラスに分かれて3箇所の観光スポットを巡ってお店の方にお話を聞いて回った。生徒たちにとって村田町の良さを再発見することができる時間となった。

### ②CM案制作

各クラスでグループに分かれ、CM案の制作に取り組んだ。その際に使用したのが、地域連携でも活用したJamboardである。生徒が思いつくアイデアを付箋に書き出し、それをまとめていく作業を行いながら、全体の流れを考えていった(図3)。実際のCM制作の際に生徒間でイメージを共有できるよう、Jamboardで絵コンテなども制作した(図4)。



(図3)



(図4)

### ③CM撮影

各チームのCM案完成後、撮影場所の希望を聞き取り、2日間の撮影スケジュールを組んでいった。村田町役場に車移動やお店・施設への事前連絡などで協力をしてもらいながら撮影を行った。この取り組みの様子は新聞でも取り上げられ、生徒たちの自信にもつながった。



(図5：河北新報の記事抜粋)

### ④CM編集・作品完成

撮影が終了し、その後の編集作業も生徒たちがiPadの動画編集アプリを用い、チームで協力しながら行った。30秒にまとめることは予想以上に難しく、説明や情報が少なく初めて見た人に伝わらない作品も多かった。そのため、他の生徒の作品の良い部分を共有し、参考にしながら修正し、作品を再度制作していった。

### ⑤CM審査会

校内CM審査会を実施し、完成した作品を上映した。生徒たちは審査員である村田町長、村田町役場の職員の方や地域おこし協力隊の方々、村田高校の校長・教頭の前で自分たちが制作したCMについての紹介をし、CMを審査してもらった。審査の結果、11作品の中から1作品が選出され、その作品「村田ってSUGOっ!!」を村田町の作品として応募することとなった。

代表生徒1名が村田町役場の方と一緒に、みやぎふるさとCM大賞の審査会に参加し、沢山の方々の前で発表を行った。人前で発表する経験を通し、プレゼンテーション能力などを身に付けることができた。



(図6：「みやぎふるさとCM大賞」のCM審査会での発表の様子 ※左：村田高校生徒、右：村田町役場職員)

### (4) 地域探究活動② (広報誌制作)

村田町には、町内に毎月配布している「広報むらた」という広報誌がある。今回の村田高校の取り組みを町内の方々にも知ってもらうため、「広報むらた」の4ページ分の記事を村田高校の1年次が制作することとなった。

#### ①お世話になったお店・施設への色紙制作

CM撮影は地域の方々の協力がなければ実現できないものだった。協力してくれた方々に感謝の気持ちを込め、色紙の制作を行った。デザインや文章、使用する写真などを各チームで考え、制作した。

#### ②お礼の訪問・インタビュー

色紙と広報誌案を持ち、各チームがお世話になったお店や施設を訪問した。色紙を渡して感謝の気持ちを伝え、広報誌にそのお店の記事を載せるためのインタビューも行った。自分たちが制作したCM作品も見てもらい、地域の方々と交流しながら、活動の様子を知ってもらう機会となった。

#### ③広報誌制作

広報誌4ページ分の内訳は事前に決めており、1・2ページ目はCM内容の紹介(図7)、3・4ページ目はお



世話になったお店や施設の紹介(図8)とすることにしてきた。各チームでインタビュー内容を元に、与えられたスペースに使用する文章を作り、写真を選定した。それをまとめることで、広報誌記事が完成した。



(図7:「高校むらた」の記事1・2ページ目)



(図8:「高校むらた」の記事3・4ページ目)

高校生が村田町を盛り上げようと頑張っている様子が村田町全体の活性化につながっていくと考え、村田町役場の協力を得て、村田町の公式 YouTube チャンネルで生徒たちが制作したCM全作品を閲覧できるようにしてもらい、村田高校のホームページでもそのページのリンクを貼り、紹介した。そして、「広報むらた」が村田町内に配られることによって、村田町内全体に知ってもらうことにつながっていった。

#### ④チラシとして町外へも発信

「広報むらた」は村田町内にのみ配布するため、町外の方々にも知ってもらいたいと考え、制作した記事をチラシにすることにした。村田町内外の様々な施設に置いてもらい、広く知ってもらうことにつながった。

#### (5) 職業人講話(地域の様々な方々より)

地域探究活動を通して、村田町の沢山の方々との関わりができていった。観光庁で行っている「地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業」採択事業である「蔵しっく文化祭」もその1つであ

る。「蔵しっく文化祭」は、村田町の職人の方や村田町を支えている方々がワークショップの講師となって行ったイベントである。そのイベントで講師となった方々にパネルディスカッション形式で講話を行ってもらった。こちらでもオンラインでの実施となったが、大人が本気で村田町について話し合う様子を見ることで、生徒たちの地域についての問題意識や地域貢献への意識が高まることにつながった。また、その講話の際に、地域の方々に生徒たちが制作したCMを見てもらう時間があり、講師の1人であるプロの映像ディレクターの方からも講評をいただき、生徒たちにとって、とても貴重な機会となった。

### 3 成果と今後の展望

#### (1) 授業実践の成果

様々な方から褒めてもらう機会が増えることは、生徒たちの自信につながり、授業に対するモチベーションにもつながる。常に外部への発信を意識した取り組みを続け、沢山の方々と関わる機会を増やし続けた。高校生が蔵の街並みなどの村田町内で活動をし、メディアでも取り上げてもらうことによって、活動中に地域の方々から温かい声をかけてもらえることが多くなり、生徒たちも地域の方々と積極的にコミュニケーションを取る様子も見られるようになった。コミュニケーション能力や問題解決能力を向上させながら、地域の方々にも取り組みを知ってもらうことができ、様々な面でプラスになる活動となった。

#### (2) 今後の展望(2,3年次 総合的な探究の時間)

今回は1年次の「産業社会と人間」の活動実践について記載したが、高校生活は3年間あり、その中でどのように生徒を成長させ、卒業後の進路につなげていくことができるかが大切となる。村田高校では2,3年次に「総合的な探究の時間」の授業が設定されている。1年次では問題解決能力をテーマに、与えられた課題に取り組んできた。2年次では主体性をテーマにし、地域の問題を他人事ではなく、自分の事として受け止め、自分たちが考え、行動できるような授業展開を構想している。今後も新しい授業展開を続け、皆さんに発信していけるようにしたい。

#### 〈参考文献〉

高校が変わる なぜいま普通科改革なのか(時事公論)